

## 提言骨子案についての主な意見

### 1 テーマについて

- 提言を「大人同士がつながろう、大人自身が楽しもう」、「子どもを主役にしよう」とした場合、タイトルに「できること」が入ると違和感がある。「子どもたちの健やかな成長のために」としてはどうか。

### 2 提言①「大人どうしがつながろう、大人自身が楽しもう」について

- みんなで活動する中で「共感」できることがあれば、継続的な活動になると思う。みんなと一緒に活動する時間で感動・想いを共有できる場にする。
- 「大人同士がつながろう」という目的は、当日の参加者同士の交流を促す企画（親子と子どもをあえて分かれる時間など）を盛り込み、知り合うきっかけ作りとしてもらう。地域の関係者との顔合わせも同様です。地域交流に興味を持つ、または、知恵を共有して頂ける高齢者との関わり、見守り環境作りになどは、コロナ禍における変化後への論点になるかと思えます。

### 3 提言②「子どもを主役にしよう」について

- 子ども達の体験や活動に対して楽しく「評価」する、認める考え方。認められることで「自己肯定感」「自尊心」など自分を意識できると思います。「主役にしよう」もよいのですが、「子どもが主役になれる」活動を支援するといいいのではないか。
- 子どもの面倒を見るとか、教えるとかではなく、子どもから学ぶ姿勢でかわる。
- 見守りの姿勢で。
- 与えるのではなく、見つけられるよう、同じ目線で一緒に考える。（創り出すことができるようサポートする。）
- 率直に子どもと一緒に楽しみ、その場を共有する。
- 誰もが、その場に貢献できる何かを持っている。ひとりひとりの存在がそれぞれ周囲に与え育ちあう。

#### 4 全体的な意見について

- 論理構造をもう少し整理した方がいい。
- 毎回の会議で各種情報提供に多くの時間が割かれていましたが、その内容は提言書には盛り込まれていないので、提言のもととなった部分だけでも盛り込むべきではないか。
- 「議論」やカギとなる考え方の変遷は示すべきではないか。
- 最後に「特別なことはしなくて良い」というのであれば、なんのための提言なのか。大人のかかわり方を改めろ、元々の活動を工夫せよ、活動に加われと言っているわけですから、十分特別なことをせよと提言しているではないか。
- この提言書は誰への提言書なのか。誰にどうして欲しいのかメッセージ性が乏しい。
- コロナ過による環境の変化が様々な場面であり、企画を実行するうえで、「実際に皆が本当に求めている事」に対する生の声・意見を吸い上げてみてはいかがか。  
何らかの形で収集したものを実施する機会へ繋げられたら良い企画ができるのではないか。委員だけでは生まれない何かがあるかと期待したい。